

なぜ日蓮は辻説法をしたと語られているのか—

日蓮像の構築と日蓮主義

講演： Yulia BURENINA 大阪大学 特任講師

コメント： Orion KLAUTAU 東北大学 准教授

辻説法とは人通りの多い辻（道が交差した場所）に立って道行く人に説法することを意味し、現在の街頭布教に相当する。戦闘的な折伏を实践した日蓮のイメージのひとつとして定着しており、現在も鎌倉市内には、小町通り沿いに日蓮の辻説法の跡といわれる場所がある。

しかし、辻説法についての記述は日蓮自筆の資料（遺文）では確認できない。また、16世紀に作られた絵伝にも辻説法の姿はみえない。さらに、辻説法という言葉自体の定着は明治時代以降のことであり、日蓮の独特の布教法として強調されるようになるのも近代に入ってからである。本発表では辻説法をめぐる語りに焦点を当て、日蓮像の構築過程を明らかにするとともに、辻説法のイメージの構築および定着において日蓮主義の果たした役割を考察する。



日時： 2021年4月28日(水), 17:00 ~ 18:30

会場： 大阪大学豊中キャンパス 中庭会議室

(同時に ZOOM ミーティングにて開催いたします)

事前登録（必須）：[Click here](#)

開催言語：講演は日本語。討論は日英両語にて行います。

Online・on-site 参加を問わず、前日までにご登録を願います。

お問い合わせは、モッタ特任助教 (fmotta@let.osaka-u.ac.jp) まで。



大阪大学
グローバル日本学
教育研究拠点
Osaka University
Global Japanese Studies
Education and Research Incubator